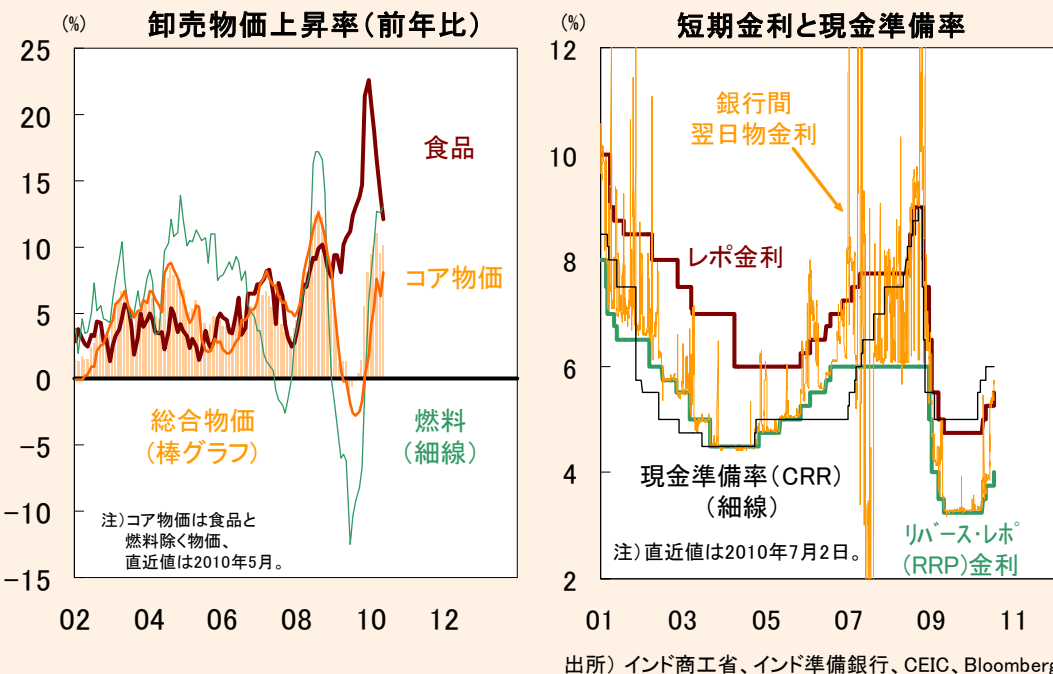


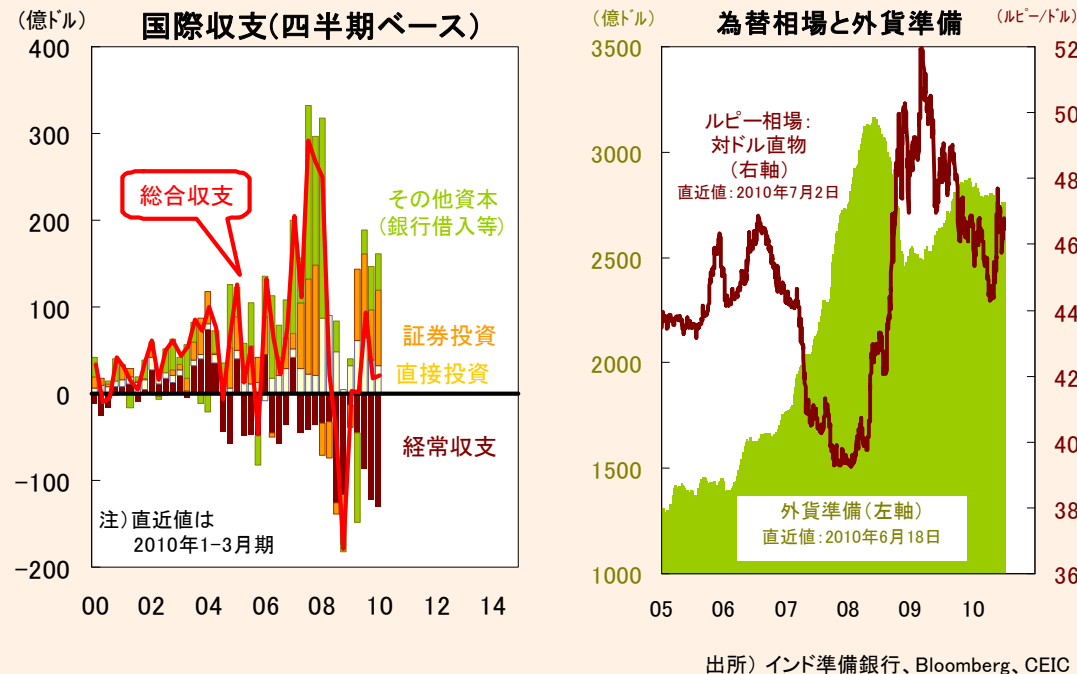
# アジア投資環境レポート

## インド：インフレ圧力高まる中で、緊急利上げに踏み切った準備銀行(RBI)

【図1】インフレ圧力が高まる中(左)、緊急利上げを実施(右)



【図2】証券投資の流入が続く中で黒字を保つ国際収支



先週2日、インド準備銀行(RBI)は緊急利上げを行い、レポ金利とリバース・レポ(RRP)金利を0.25%ずつ、5.5%と4.0%へ引上げることを決定しました。

今月27日の四半期政策見直しを待たずに利上げに踏み切ったのは、足元のインフレ圧力が余りに強かったためと考えられます。昨年の雨不足による食品インフレは徐々に勢いを失う一方、景気回復に伴う需要側からの圧力によってコア物価は上昇を続けていました(図1左)。加えて、先月25日に政府が財政の健全化のために燃料小売価格の引き上げ(補助金の削減)に踏み切ったため、同価格の上昇に伴う一層の物価上昇圧力の高まりは避けられない見通しでした(詳細は、「[アジア・マーケット・マンズリー](#)」7月号を参照)。市場参加者の多くは燃料価格引上げに伴い、緊急利上げは不可避との見方でしたが、今回の緊急利上げのタイミングは予想以上に早いものでした。

移動通信周波数を落札した業者による払込が納税期の6月に重なったため、銀行間の資金がひっ迫しており、5月末より、翌日物金利は事実上の上限であるRBIレポ金利まで上昇していました(図1右)。このため、RBIは資金市場が落ち着くまで待って緊急利上げに踏み切るとの見方が広まっていました。

今回の緊急利上げは、インフレ圧力へのRBIの強い警戒感を反映したものでしょう。予想外に早い利上げにより、当面は、長期金利の上昇と通貨ルピー相場の上昇が予想されます。しかし、欧州の財政問題や世界経済の減速懸念などから、足元の投資家のリスク許容度は低下しています。同国は、拡大する経常赤字を証券投資の流入などでカバーしており(図2左)、証券投資の流出につながるリスク選好の低下は、ルピー安圧力となります。今回の利上げに伴うルピー高は、一時的なものに留まると予想されます。(入村)

### **本資料に関してご留意頂きたい事項**

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

○本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問経済調査部の見解です。また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。